

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス ふあんふあん		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心して利用できる場所 利用者が楽しく利用できる場所	活動の様子や細かな気付き等の連絡。 小集団活動に対応できるスキルを遊びやかかわりの中で指導。 ・安全管理の徹底と共有 ・衛生・防災体制の構築 ・家庭との密な連携	発達特性を考慮した支援カリキュラムの導入・考案。 より集団活動等に対応できるスキルなど指導出来るよう検討。 専門的なアセスメントの向上 身体的な安全だけでなく、心理的な安心を提供できるよう、 行動特性に基づいた環境設定構造化のスキルを職員研修でさらに向上。
2	アットホームな環境	スタッフとの距離感。 支援者としての意義は大前提だが、利用さんが気軽に コミュニケーションを図れる様明い雰囲気心掛けています。 ・個別のペースを尊重した居場所づくり ・家庭的なコミュニケーションの重視 ・馴染みの関係性の維持	コミュニケーションを更に充実させる。 とにかく関わる。個を知る。 「寄り添い」の専門性の強化 アットホームさは時として「馴れ合い」に見えてしまうリスクがある為、親しみやすさの中に、専門的なアセスメント(客観的分析)に基づいた支援が行えるよう、 スタッフの対人援助スキルの研修を強化します。
3	利用者さん個々への対応力	利用者さん・保護者さんからのニーズに対して 最大限サポート出来る人材を育成。 ・多角的なアセスメントの実施 ・「選べる・伝えられる」支援の工夫 ・スタッフ間の情報即時共有	スタッフの能力向上への研修や資格取得。 個性あふれる人材の確保。 ライフステージを見据えた支援の運動

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流がない	プライバシーへの配慮と心理的ハードル。 時間的・物理的な制約。 家庭・地域連携の「点」から「線」への不足。	交流の「選択肢」の提供 強制参加ではなく、まずは「茶話会」や「オンライン座談会」等、 参加しやすい形式で、同じ悩みを持つ保護者様同士が 情報交換出来る場を提供。 またそれらを実現するツール等の開拓。
2			
3			